



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	消防本部庁舎	階数	地上8F、地下1F
建設地	横浜市保土ヶ谷区川辺町2番地20	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	389 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年10月 予定	評価の実施日	2020年2月25日
敷地面積	2,865 m ²	作成者	浅野智之
建築面積	2,200 m ²	確認日	2020年3月5日
延床面積	14,423 m ²	確認者	浅野智之



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 3.8

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算
①参照値 100%
②建築物の取組み 72%
③上記+②以外の 72%
④上記+ 72%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5
Q1 室内環境: 4
Q3 室外環境(敷地内): 3
LR1 エネルギー: 2
LR2 資源・マテリアル: 1
LR3 敷地外環境: 1

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Qのスコア = 4.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 4.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 4.4

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.5

LR 環境負荷低減性

LRのスコア = 4.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 4.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.6

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
横浜市消防本部機能として、地震、水害等に対する防災力に優れ、BCPIにも寄与する省エネ性能の高い庁舎	2段階の浸水対策 浸水深: 1m未満 防潮版設置 外部開口部防水ドアの採用 浸水深 1~2.7m (最大浸水深): 地下階にある設備の防水対策 止水MHの採用	
Q1 室内環境 執務室空調(騒音源)を床吹き出し輻射空調による騒音低下 サッシュ遮音性能T-2 窓: ECP+断熱材厚50mm 開口部: LOWEガラスサッシュ 断熱材吹き出し方式による高性能空調 ライトシェルフ(水平・垂直)設置 (南西面) 保潔天井☆☆☆☆材料の採用、ホルムアルデヒド以外の汚染物質低減措置	Q2 サービス性能 一人当たり9㎡以上の執務スペース OAフロアコンセント容量 4 0VA/㎡ BCPコンセプト→天井レス執務室 非常時対応がしやすい オフィスレイアウト モジュール化した照明	Q3 室外環境(敷地内) 屋上緑化 周辺建物高、色彩の調和 空地部分への緑化 地域性のある素材(レンガ)の採用
LR1 エネルギー 水平・垂直ライトシェルフの採用、自然換気できる開口部 BPI0.69 BEI0.65 エネルギー消費の把握ができるBEMS採用	LR2 資源・マテリアル 雨水中水利用 プレストレス梁 PC床板等の採用 自然冷媒(冷温水)による空調システム	LR3 敷地外環境 燃焼器具の不使用 風の通り道による夏季の卓越風への配慮 屋上緑化 高反射屋根(ヘリパッド) 外壁面高反射塗装(白系) 風向シミュレーション

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



4 横浜市重点項目についての環境配慮概要 <非住宅>

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。

建物名称 **消防本部庁舎**

建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving 重点項目への取組(5点満点) **【省エネルギー性能】 4**

■省エネルギー性能 (国土交通省告示に基づく表示)

この建物の設計一次エネルギー消費量 **35** %削減



■エネルギー対策 (①建物外皮の熱負荷抑制 ②自然エネルギー利用 ③設備システムの高効率化 ④効率的運用)

①壁: ECP+断熱材厚50mm 開口部: LOWEガラスサッシ

②自然採光(ライトシェルフ)、自然換気

③床輻射吹き出し方式による居住域空調

④エネルギー消費の把握ができるBEMS採用

健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community 重点項目への取組(5点満点) **【快適・働きやすさ】 4**

■室内環境対策 (⑨温熱環境対策 ⑩光環境 ⑪空気質環境)

ライトシェルフ(水平・垂直)設置(南西面)床輻射吹き出し方式による居住域空調

屋上から新鮮空気取り込み

■機能性対策 (⑫機能性 ⑬知的生産性向上の取組)

天井高2.9m以上(天井レス執務室)

無柱空間となるロングスパン執務室

■室外環境(敷地内)対策 (⑭敷地内温熱環境の向上)

空地部分への緑化、屋上緑化

透水性インターロッキングの採用

防災への配慮 (R) Resilience 重点項目への取組(5点満点) **【防災】 5**

■耐用性・信頼性 (⑮耐震・免震 ⑯部品・部材の耐用年数向上 ⑰信頼性)

中間層免震の採用

プレストレス、PC材の採用

熱源・引き込み2重化、免震対応、重要度に応じた優先運転等

地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape 重点項目への取組(5点満点) **【地域・まちづくり】 4**

■室外環境(敷地内)対策 (⑱生物環境 ⑲まちなみ・景観 ⑳地域性への配慮)

周辺建物高、色彩の調和(隣接ビルと建物高さ、色調を合わせる。)

地域性のある素材(レンガ)の採用

風の通り道の確保

太陽光発電などの導入

環境配慮技術の導入 (太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)

蓄電池・雨水等利用設備

エネルギーマネジメントシステム導入

その他; 床輻射吹き出し空調システム

BEMS



CASBEE横浜2017年版v.1.7

消防本部庁舎

バージョン CASBEE横浜2017年版v.1.7

スコアシート	実施設計段階		重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
	配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質									
Q1 室内環境									
1 音環境									
1.1 騒音									
1.2 遮音									
1.3 吸音									
2 温熱環境									
2.1 室温制御									
2.2 湿度制御									
2.3 空調方式									
3 光・視環境									
3.1 屋光利用									
3.2 グレア対策									
3.3 照度									
3.4 照明制御									
4 空気質環境									
4.1 発生源対策									
4.2 換気									
4.3 運用管理									
Q2 サービス性能									
1 機能性									
1.1 機能性・使いやすさ									
1.2 心理性・快適性									
1.3 維持管理									
2 耐用性・信頼性									
2.1 耐震・免震									
2.2 部品・部材の耐用年数									
2.4 信頼性									



CASBEE横浜2017年版v.1.7

消防本部庁舎

バージョン CASBEE横浜2017年版v.1.7

スコアシート		実施設計段階		重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
		3 対応性・更新性				4.4	0.30	-	-	4.4
3.1 空間のゆとり				4.6	0.30	-	-	-		
1 階高のゆとり				5.0	0.60	-	-	-		
2 空間の形状・自由さ				4.0	0.40	-	-	-		
3.2 荷重のゆとり				5.0	0.30	-	-	-		
3.3 設備の更新性				4.0	0.40	-	-	-		
1 空調配管の更新性				2.0	0.20	-	-	-		
2 給排水管の更新性				4.0	0.20	-	-	-		
3 電気配線の更新性				5.0	0.10	-	-	-		
4 通信配線の更新性				5.0	0.10	-	-	-		
5 設備機器の更新性				5.0	0.20	-	-	-		
6 バックアップスペースの確保				4.0	0.20	-	-	-		
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	3.5		
1 生物環境の保全と創出	地域・まちづくり	⑩生物環境の保全と創出		3.0	0.30	-	-	3.0		
2 まちなみ・景観への配慮	地域・まちづくり	⑨まちなみ・景観への配慮		4.0	0.40	-	-	4.0		
3 地域性・アメニティへの配慮				3.5	0.30	-	-	3.5		
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	地域・まちづくり	⑫地域性への配慮		4.0	0.50	-	-	-		
3.2 敷地内温熱環境の向上	快適・働きやすさ	⑭敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	-		
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	4.1		
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	4.4		
1 建物外皮の熱負荷抑制	省エネルギー性能	①建物の熱負荷抑制		5.0	0.20	-	-	5.0		
2 自然エネルギー利用	省エネルギー性能	②自然エネルギー利用		4.0	0.10	-	-	4.0		
3 設備システムの高効率化	省エネルギー性能	③設備システムの高効率化		4.5	0.50	-	-	4.5		
4 効率的運用				4.0	0.20	-	-	4.0		
集合住宅以外の評価				4.0	1.00	-	-	-		
4.1 モニタリング	省エネルギー性能	④効率的運用		4.0	0.50	-	-	-		
4.2 運用管理体制	省エネルギー性能	④効率的運用		4.0	0.50	-	-	-		
集合住宅の評価				-	-	-	-	-		
4.1 モニタリング	省エネルギー性能	④効率的運用		-	-	-	-	-		
4.2 運用管理体制	省エネルギー性能	④効率的運用		-	-	-	-	-		
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	4.3		
1 水資源保護				3.8	0.20	-	-	3.8		
1.1 節水				4.0	0.40	-	-	-		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.7	0.60	-	-	-		
1 雨水利用システム導入の有無				4.0	0.70	-	-	-		
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.30	-	-	-		
2 非再生性資源の使用量削減				5.0	0.60	-	-	5.0		
2.1 材料使用量の削減				5.0	0.11	-	-	-		
2.2 既存建築躯体等の継続使用				5.0	0.22	-	-	-		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				5.0	0.22	-	-	-		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				5.0	0.22	-	-	-		
2.5 持続可能な森林から産出された木材				-	-	-	-	-		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				5.0	0.22	-	-	-		
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.20	-	-	3.0		
3.1 有害物質を含まない材料の使用				4.0	0.30	-	-	-		
3.2 フロン・ハロンの回避				2.6	0.70	-	-	-		
1 消火剤				1.0	0.33	-	-	-		
2 発泡剤(断熱材等)				4.0	0.33	-	-	-		
3 冷媒				3.0	0.33	-	-	-		
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.6		
1 地球温暖化への配慮				4.1	0.33	-	-	4.1		
2 地域環境への配慮				3.5	0.33	-	-	3.5		
2.1 大気汚染防止				5.0	0.25	-	-	-		
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50	-	-	-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.0	0.25	-	-	-		
1 雨水排水負荷低減				3.0	0.25	-	-	-		
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	-		
3 交通負荷抑制				3.0	0.25	-	-	-		
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	-		
3 周辺環境への配慮				3.4	0.33	-	-	3.4		
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	-		
1 騒音				3.0	1.00	-	-	-		
2 振動				-	-	-	-	-		
3 悪臭				-	-	-	-	-		
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40	-	-	-		
1 風害の抑制				3.0	0.70	-	-	-		
2 砂塵の抑制				3.0	-	-	-	-		
3 日照障害の抑制				3.0	0.30	-	-	-		
3.3 光害の抑制				5.0	0.20	-	-	-		
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				5.0	0.70	-	-	-		
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				5.0	0.30	-	-	-		

CASBEE[®]横浜 | 評価結果 | 31-146



CASBEE横浜2017年版v.1.7

消防本部庁舎

バージョン CASBEE横浜2017年版v.1.7

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目 <非住宅> <集合住宅>	評価点	重み 係数	評価点	重み 係数			
						上記以外の重点項目		
<事務用途>			-	-	-	-	-	
知的生産性向上への取組	快適・働きやすさ ⑬知的生産性向上への取組	5.0	-	-	-	-	-	
<住宅用途>			-	-	-	-	-	
健康と安心			-	-	-	-	-	
1 化学汚染物質の対策	健康・安心 ⑥健康対策	-	-	-	-	-	-	
2 適切な換気計画	健康・安心 ⑥健康対策	-	-	-	-	-	-	
3 結露・カビ対策	健康・安心 ⑥健康対策	-	-	-	-	-	-	
4 犯罪に備える(共用部の防犯対策)	健康・安心 ⑦防犯対策	-	-	-	-	-	-	